

SAMPLE



RIM INTELLIGENCE CO.

フェアな価格 確かな信頼

バイオマス

Biomass

お申し込み >

試読 >

☆RIM BIOMASS INTELLIGENCE WEEKLY

★No. 82 Sep 2 2021

Copyright (C) 2021 Rim Intelligence Co. All rights reserved.

—TOKYO, 10:00 JST Sep 2 2021<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

## ◎お知らせ

### ○「第5回立ち寄りセミナー ～初秋編～」のお知らせ

リム情報開発は、脱炭素化が進むエネルギー産業の未来に関する考察を深めていただくための一助となるよう、以下の要項でオンラインセミナーを開催いたしますのでお気軽にお立ち寄りください。この立ち寄りセミナーは、エネルギーの動向をタイムリーに紐解く季刊誌「エネルギー通信」の発行に合わせて開催しております。

◆テーマ：進む脱炭素・新たな可能性を探る

第1部：脱炭素に向けた企業の動きが加速

第2部：変わりゆく森と動物から～バイオ発電・燃料の躍進～

◆日時：9月9日（木）14:00～15:30

◆開催形式：Microsoft Teams ライブイベント。9月8日（水）13:00～15:00の間に接続テストの時間を設けます。9月8日12:00までにメールにてご案内します。Windows7もしくはそれより古い場合はご参加いただけません。

◆参加費：1名様につき3,300円、資料費込みの場合5,000円（ともに税込み）

※請求書に掲載の所定口座へ9月7日（火）までにお振込みください。資料をお申込みの方には、お支払い確認後、事前にメールにてお送りいたします。参加者には、リムが発行する季刊誌「エネルギー通信」（定価5,500円、税込み）の8月20日号を無料で進呈します。

◆お申し込み：締め切りは9月6日（月）。下記のリンクよりお申し込みください。

URL：<https://www.rim-intelligence.co.jp/info/cat03/2021/1692780.html>

[問合せ] 研修・セミナー開発チーム 電話 03-3552-2411

E-Mail [info@rim-intelligence.co.jp](mailto:info@rim-intelligence.co.jp)

## リムレポートのご紹介

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/report/>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG LNG
石油化学	ポリオレフィン	電力
バイオマス(週刊)	デイリーデータ	Rim Data File
クリーンエネルギー(週刊)	CROSS VIEW 軽油/重油	エネルギー通信

上記に関するお問い合わせは、TEL 03-3552-2411 E-mail [info@rim-intelligence.co.jp](mailto:info@rim-intelligence.co.jp)



◎Wood Pellets (木質ペレット \$/mt)		
OF0B Southeast Asia (Vietnam and Indonesia) Spot Prices for South Korea		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	+15 120.00-130.00 +20	13,343-14,455
FOB spot prices (Nov)	+15 120.00-130.00 +20	13,343-14,455
FOB spot prices (Dec)	120.00-130.00	13,343-14,455
OF0B Southeast Asia (Vietnam and Indonesia) Spot Prices for Japan		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	+20 130.00-140.00 +20	14,455-15,567
FOB spot prices (Nov)	+20 130.00-140.00 +20	14,455-15,567
FOB spot prices (Dec)	130.00-140.00	14,455-15,567
OF0B North America (including southwest Canada) Spot Prices		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	135.00-145.00	15,011-16,123
FOB spot prices (Nov)	135.00-145.00	15,011-16,123
FOB spot prices (Dec)	135.00-145.00	15,011-16,123
OCFR Japan Spot Prices		
	Wood Pellets	Yen/mt
CFR Japan spot prices (Oct)	+5 150.00-160.00 +10	16,679-17,790
CFR Japan spot prices (Nov)	+5 150.00-160.00 +10	16,679-17,790
CFR Japan spot prices (Dec)	150.00-160.00	16,679-17,790
OFreight rates		
Southeast Asia to North Asia	+2 40.00-45.00 +5	
North America to North Asia	45.00-55.00	
TTS=111.19 (9月1日、三菱UFJ銀行)		

◎PKS (パーム椰子殻 \$/mt)		
OF0B Indonesia Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	85.00-95.00 +2	9,451-10,563
FOB spot prices (Nov)	85.00-95.00 +2	9,451-10,563
FOB spot prices (Dec)	85.00-95.00	9,451-10,563
OF0B Malaysia Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	83.00-87.00	9,229-9,674
FOB spot prices (Nov)	83.00-87.00	9,229-9,674
FOB spot prices (Dec)	83.00-87.00	9,229-9,674
OCFR Japan Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
CFR Japan spot prices (Oct)	130.00-135.00	14,455-15,011
CFR Japan spot prices (Nov)	130.00-135.00	14,455-15,011
CFR Japan spot prices (Dec)	130.00-135.00	14,455-15,011
OFreight rates		
Southeast Asia to North Asia	40.00-45.00	
TTS=111.19 (9月1日、三菱UFJ銀行)		

◎木質チップ国内市場 (一般材、未利用材 Yen/mt)		
OJapan Domestic price (in Yen/mt)		
	Yen/mt	
一般材	7,500- 9,500	
未利用材	10,000-11,000	
(注記) 価格評価の対象は水分 50%前後		

## ◎木質ペレット

## ○概況

主要な出荷地であるベトナムで新型コロナの感染拡大が続いており、供給懸念が解消されない。実取引は限られるものの、韓国向け、日本向けともにアイデアベースでは価格水準が大幅に切り上がった。東南アジアでの調達困難になり、ロシア玉を物色する動きが強まっているとの声も聞かれた。

## ○FOB 東南アジア

東南アジア積み木質ペレットは、韓国向けが10～11月積みが120.00～130.00ドルと前週から17.50ドル高。12月積みも120.00～130.00ドルとなった。主要な出荷地である東南アジアでの出荷難を受けた。

既報のとおり、韓国南東発電(KOEN)は11月15日～22年4月30日着の計17万トンの木質ペレットの買付け入札を実施している。9月7日に事前審査を締め切り、10日に入札を実施、17日に契約を結ぶ予定。

市場関係者によると、KOENを始めとする国営電力会社、グンジャンエナジーといった独立系電力会社が木質ペレットの買付け入札を相次いで実施しているものの、落札に至らないケースが多いという。主要な輸出元であるベトナムやマレーシアなどの東南アジアで供給懸念が強まり、価格が高騰しているためだ。「ベトナム品の足元の商談水準は、韓国着ベースで170ドル程度に切り上がっている」(日本商社)との声が聞かれた。ベトナムでのFOBベースでも120～130ドルに上昇しているようだ。極端な値上がりから一時的に調達を諦める発電会社もあると

いい、不足となった数量をあらためて買い付ける必要が出ているようだ。

日本向け10～11月積みは130.00～140.00ドルと前週から20.00ドル高。12月積みも130.00～140.00ドルとなった。供給不安から商談水準が大きく上昇した。日本向けの新たなスポット取引は聞かれなかったものの、ベトナムでのFOBベースでは130～140ドルとの声が聞かれた。

引き続き北東アジア向けの主要な輸出国であるベトナムでは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う出荷難が深刻だ。ベトナム最大都市のホーチミンでは依然としてロックダウンが続いている。港湾作業員が新型コロナに感染し、一時的に港湾業務が停止となるといった事態も発生しているようだ。ベトナム南部からは韓国向けの出荷が多く、韓国向けカーゴを扱う供給業者や商社が玉の確保に奔走していると伝えられる。一方、日本向けはベトナム中部からの出荷が多いため、影響は比較的軽微との情報も伝えられている。

木質ペレット 韓国向け		入札表							
社名	発電所名	積/着	積/着時期	数量(トン)	締切日	有効期限	価格(ドル/トン)	結果	落札者
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	21年11月15日~22年4月30日	170,000	21年9月7日(事前審査)				
KOWEPO	テアン発電所	DDP	21年9月~22年1月	15,000	21年8月17日				
ガンジャンエナジー		DDP	21年8~10月	200,000	21年7月30日				
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	21年7月1日~9月30日	66,000	21年8月9日(事前審査)				
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	21年9月13日~10月15日	25,000	21年7月2日(事前審査)				
KOSPO	ハドン発電所	DDP	21年7月1日~9月30日	66,000	21年5月24日				
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	21年8月9日~22年6月30日	200,000	21年6月3日		100ドル半ば以下 FOB相当	落札	韓国商社1社
KOSPO	ハドン発電所	DDP	21年6~10月	40,000	21年4月29日		90ドル台後半 FOB相当	落札	
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	21年7月12日~22年1月11日	180,000	21年4月19日			落札	韓国商社
ガンジャンエナジー		DDP	2021年5~7月	120,000	21年4月2日		90ドル程度 FOB相当	落札	韓国商社
ガンジャンエナジー		DDP	2021年4月	100,000			90ドル程度 FOB相当	落札	韓国商社
KOSPO	サムチェク発電所	DDP	21年3月22日~6月30日	5,000	21年3月2日			落札	
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	21年3月8日~3月31日	22,000	21年2月24日			落札	
KOSPO	サムチェク発電所	DDP	21年3月22日~6月30日	15,000	21年2月22日			落札	
KOSPO	サムチェク発電所	DDP	21年3月22日~6月30日	10,000	21年2月16日			落札	
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	21年5月17日~8月15日	150,000	21年2月18日				
KOSPO	ハドン発電所	DDP	21年3~5月	30,000	21年1月25日			落札	韓国商社
KOWEPO	テアン発電所	DDP	21年2月1日~6月30日	5,000				落札	韓国商社
KOWEPO	テアン発電所	DDP	21年2月1日~6月30日	10,000	21年1月15日			落札	韓国商社
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	21年2月1日~3月6日	15,000	21年1月5日			落札	韓国商社2社
KOWEPO	テアン発電所	DDP	21年2月1日~6月30日	15,000	20年12月31日			キャンセル	
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	20年12月	41,000	20年11月16日			落札	韓国商社
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	20年12月~21年4月	250,000	20年10月14日		100~105ドル FOB相当	落札	韓国商社3社
ガンジャンエナジー		DDP	20年11月~21年2月	300,000	20年10月5日		95~110ドル強 FOB相当	落札	韓国商社
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	20年9月後半~10月半ば	30,000	20年9月初め			落札	韓国商社
KOEN	ヨンドン2号機	DDP	2020年8月15日~9月20日	30,000			180,000ウォン	落札	韓国商社
KOSPO	ハドン発電所	DDP	20年10月~21年1月	49,000	20年9月1日		90ドル台半ば FOB相当	落札	韓国商社
KOSPO	サムチェク発電所	DDP	20年9月25日~12月31日	40,000	20年8月10日		90ドル台半ば FOB相当	落札	韓国商社
KOWEPO	テアン発電所	DDP	20年9~12月	15,000	20年7月6日				
ガンジャンエナジー		CIF	20年8~10月	300,000	20年6月29日		90~100ドル FOB相当	落札	韓国商社
KOSPO	ハドン発電所	DDP	20年8~9月	19,000	20年7月8日		90~100ドル FOB相当	落札	韓国商社
KOWEPO	テアン発電所	DDP	20年9~12月	15,000	20年7月6日		90~100ドル FOB相当	落札	韓国商社
KOSPO	サムチェク発電所	DDP	20年7~9月	40,000	20年5月14日		100ドル以下 FOB相当	落札	韓国商社
KOSPO	ハドン発電所	DDP	20年5~7月	37,000	20年3月27日			落札	韓国商社
KOEN	ヨンドン2号機		20年6月~21年5月	100,000	20年3月1日			落札	韓国商社
KOWEPO	テアン発電所	DDP	20年3月2日~6月30日	28,000	20年2月5日				
ガンジャンエナジー			20年4、6月	190,000	20年2月25日			落札	日本商社・韓国商社

## OF0B 北米

北米積み木質ペレットは9~11月積みは135.00~145.00ドルと前週から横ばいとなった。

引き続き欧州向けの需要が堅調という。既報のとおり、欧州では経済活動が回復しつつあり、電力需要も高まっているという。北米産の木質ペレットを買い付ける動きも続いているようだ。欧州

着の価格はCFR ベース 170ドル程度で推移しているとの声が聞かれた。一方、アジア向けのスポット取引は低調。東南アジア品の価格が上昇しているものの、依然として北米品よりは割安に推移している。

## OCFR 日本

日本着木質ペレットは10~11月着は150.00~160.00ドルと前週から7.50ドル高。12月着も150.00~160.00ドルとなった。

新規の買付けの動きは浮上せず。ただ、東南アジアからの供給懸念を背景に相場が急騰している。ベ

トナムやマレーシアでは新型コロナウイルスの感染対策として厳しいロックダウンが続いており、日本や韓国向けカーゴの必要数量を集めることができないケースが増えているという。一部の市場関係者は、ベトナム品の価格が180ドル以上に急騰しているとの見方を示した。代わりにタイ積みやロシア

産の調達に動くプレーヤーも散見されるという。ロシア製の場合、日本着価格で150~160ドルで取引が可能なようだ。極東ロシアのウラジオストクから日本向けのフレートはトンあたり30ドル程度で推移しているようだ。また、タイ品の原料はゴムの木などで、ベトナムやマレーシア品との品質の違いから、

受け入れを敬遠する発電事業者もいるという。

市場関係者によると、7月にロシアから日本に持ち込まれた5,300トン余の木質ペレットは、北関東の発電事業者向けと見られている(「統計」欄を参照)。

## ○フレート

ベトナムと日本間のフレートは40.00~45.00ドルと前週から3.50ドル高。一方、北米と日本間のフレートは45.00~55.00ドルと前週からもち合った。

しており、30ドル台では手配ができなくなりつつあるという。商談水準は40ドル~40ドル半ばまで切り上がっているようだ。

ベトナムと日本間では傭船が一段と困難になっ

## ◎PKS

### ○概況

インドネシア積みは供給引き締め感を受け上昇。このところのスポット相場の軟化を受けて一部の供給業者が販売を控え始めている。また、9月積み関税の上昇が決まり、売値を切り上げる向きもいるようだ。マレーシア積みは変わらず。日本着市場では11月着のスポット買付け入札が開示された。

## ○FOB 東南アジア

インドネシア積みPKSは10~11月積みが85.00~95.00ドルと前週比1.00ドル反発した。供給タイト感が背景。12月積みは85.00~95.00ドル。

的な販売打診を当面控える方針を示しているもよう。

インドネシア積みでは、このところのスポット相場の下落を受けて、供給業者勢の販売意欲が減退している様子。インドネシアでは乾季にあたる5~10月がPKS原料の収穫期にあたり、1年のうち10月に最も収穫量が多くなる傾向にある。収穫が順調に増えるにつれ、国内の調達価格が軟化しているが、「調達価格の下落以上に日本向けスポット取引価格は値崩れを起こしている」(供給業者1社)という。市場関係者によると、長らく続いているスポットフレートコストの高騰により、FOBベースの相場が下げ圧力を受けていることが背景にあるようだ。東南アジア-日本間のスポットフレートコストはここ数か月で10ドル以上上昇したほか、インドネシア積みPKSの輸出量全体の1割を占めるタイ向けで使用される内航船も、傭船料が上昇しているという。「仕向け先を問わず希望価格で売れない状況」(供給業者1社)が続いていることから、一部の売り手は積極

加えて、今週決定となった関税の引き上げが「サプライヤーにとっては痛手」(供給業者1社)となっている。インドネシアから9月に輸出されるPKSに賦課される関税額は、輸出税が前月からトン当たり6ドル上昇し、同26ドル。パーム産業目的基金(レビー)は同3ドルで据え置きとなり、輸出時のPKSに対する課税額は合計で同29ドルとなった。輸出税は、インドネシア政府が毎月月末に発表するCPO(パーム油)基準価格をベースに決定される。同政府が8月27日に発表したCPO基準価格は前月比136.64ドル高の1,185.26ドルで、2カ月ぶりの上昇となった。これに伴い、PKSの輸出税はCPO基準価格1,150~1,200ドルで適用されるトンあたり26ドルで決定した。

9月積みからの関税上昇を受け、一部の売り手はこれを考慮し、売値を切り上げているようだ。売り手1社は現時点での売りアイデアを95ドル前後で

寄せた。このなか、インドネシア積みのスポット商談は90ドル以上で展開されるとの見方が伝えられた。

インドネシア積みPKS関税の推移			
(ドル/トン)	輸出税	レビー	合計
2020年1月	7	10	17
2020年2月	11	10	21
2020年3月	10	10	20
2020年4月	7	10	17
2020年5月	7	10	17
2020年6月	7	15	22
2020年7月	7	15	22
2020年8月	7	15	22
2020年9月	7	15	22
2020年10月	10	15	25
2020年11月	10	15	25
2020年12月	13	7	20
2021年1月	18	7	25
2021年2月	20	7	27
2021年3月	20	7	27
2021年4月	22	7	29
2021年5月	24	7	31
2021年6月	28	7	35
2021年7月	22	3	25
2021年8月	20	3	23
<b>2021年9月</b>	<b>26</b>	<b>3</b>	<b>29</b>

(リム情報開発が作成)

マレーシア積みPKSは10～11月積みが83.00～87.00ドルと前週からもち合った。

マレーシア積みでは、売買プレーヤーともにスポット市場に現れており、10月積み以降の商談が展開されている。日本商社1社は複数の供給業者勢から販売打診を受けているといい、自社の需給バランスを確認中だ。買い手1社は日本着市場で発電事業者1社による買付け入札が開示されたことから(「CFR日本」参照)、10月マレーシア積みのスポット購入を検討中。同社は80ドル台前半～半ばでの手当てを念頭に今後サプライヤーとの商談にのぞむ構え。一部の供給業者が90ドル弱で販売可能との情報が伝えられている。9月からインドネシア積みPKSの関税が引き上げられたことを受けて、「FOBベースでの商談はマレーシア安、インドネシア高の構図が続く」(日本商社1社)とみられており、マレーシア積みへの買い気は堅調に推移すると見方が寄せられている。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大が続くマレーシアでは、日本向けの輸出に大きな遅れや停滞は発生していないものの、物流面での規制が続けられており、足元でも「(規制前の)10～15%は輸送効率が落ちている」状況のようだ。輸送効率の低下に加え、10月以降の雨季に突入すると収穫量が減少することから、この先の調達コストの上昇を不安視する声も聞かれている。このなか、供給業者のなかには売値を100ドル前後で据え置き、販売価格の引き下げに慎重姿勢を示す向きもいた。

中部の発電事業者1社が8月4日締め切りでFOBベースの買付け入札を実施し、10月マレーシア積みPKS1万トンが80ドル台半ばで落札されたと伝えられたことは既報のとおり。新たに、落札価格は83ドル以下だったとの情報が聞かれた。落札者は依然として明らかになっていないものの、積み地はポートクランだったとみられている。

## OCFR 日本

日本着PKSは10～11月着が130.00～135.00ドルと横ばいとなった。12月着は130.00～135.00ドル。

九州の発電事業者1社が買付け入札を開示した。対象は11月着PKS1万トンで、来週にも応札を締め切る予定のようだ。複数の商社が参加に向け準備を進

めている。日本商社1社はインドネシア積みでの応札を検討しており、現時点での売りアイデアを135ドル以上で寄せた。一方、このところのマレーシア

積み相場を勘案した場合、120ドル台での応札を検討する向きもいる可能性があるとして一部の市場関係者は指摘している。

## ○フレート

インドネシアと日本間、マレーシアと日本間のフレートは40.00~45.00ドルと前週から張り付いた。しかし、相場の基調は強く、40ドル台前半でのスポット傭船は困難となりつつあるとの声が聞かれた。

近海船の需給逼迫は解消の兆しがなく、相場は高止まりが続いている。市場関係者からは、「年末に向けて下がる要素が全く見当たらない」(日本商社1社)との声が聞かれたほか、近く商談水準が50ドル前後に切り上がるとの予想も伝えられた。また、一部の市場関係者によると、COA(数量運送)契約など長期契約分のオプションを行使する場合

でも、10月以降は船舶の確保が難しくなっているもようだ。

東南アジア域では新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。インドネシアではこれまでに港湾事業者の新型コロナ発症で荷役の一時停止や遅延が発生していたと伝えられたが、現地では「感染拡大が深刻だった7月に比べ落ち着いてきており、ピークを越えた」(供給業者1社)とみられている様子。一方で、「輸出のスケジュール変更や遅れは足元でもそれなりに発生している」(日本商社)との情報も伝えられており、日本側では調整に追われる関係者が大勢のようだ。

## ◎国内市場

### ○市況(9月2日時点)

未利用材チップは10,000~11,000円、一般材チップは7,500~9,500円と張り付いた。

## ○トピックス

### 【九州】

宮崎県では春先以降、未利用材の供給が鈍化している。いまのところ目立った不足までは生じていないが、今後の安定調達が心配され始めている。すでに発電所の原木在庫水準は低下傾向との観測も聞かれた。海外市況の好調を受け、未利用材の一部が輸出向けに流れているためだ。

「輸出向けの売価は立方メートルあたり1万円程度とバイオマス向けより高い。素材(丸太)生産業者は輸出に目を向けている」(林業関係者)。県内のバイオマス発電向け原木価格は現在、チップ工場届けのトンあたりで未利用材が7,000~7,500円、一般木材が同5,000円弱で膠着しており、取引単位の違いはあれど、相対的に輸出向けが高い。輸出向け価格につられてバイオマス発電

向けの原木価格が上がる気配はない。発電所の売電価格が固定価格買取制度(FIT)で固まっているからだ。宮崎は県内の細島港、隣接する鹿児島県の志布志港など主要な原木輸出港へアクセスしやすいのも輸出向けに材が流れる背景だ。

県内の原木増産は難しそうだ。慢性的な人手不足が背景にあり「足元以上に生産は増やせない」(林業関係者)。8月中旬の豪雨も生産を抑制する要因だ。雨の間は山林への林業機械の搬入が滞った。雨で乱れた山林内の作業道の補修なども林業活動を停滞させる可能性がある。周辺の発電所の中には、燃料調達を安定化させるため、これまで扱いの手間を勘案し敬遠してきたタンコロ(木の根元部分)まで調達対象に含める動きが一部始

めているという。未利用材のタンコロ価格は現在4,000~4,500円程度との見方がある。

宮崎に隣接する熊本県では県南エリアで新規バイオマス発電所(出力2,000kW級)の建設計画が進んでいる。運転開始予定は2023年。燃料は未利用材を主体とする木質チップで、チップの年間使用量は約3万5,000トンとなる見込み。熊本県内は既存のバイオマス発電所が複数あり、地域によって原木供給が逼迫気味なところもあるが、県南には主要な発電所がなく、木材の賦存量を勘案しても燃料調達の方法が立てやすいという。

一般的に出力2,000kW級の発電所は規模が小さい分、採算性の確保が難しいとされるが、この県南地区の発電事業は発電所建設予定地を地元自治体から賃借し、またチップの内製なども手掛けることで、事業コストを削減する構え。燃料調達の安定化に向け、パーク(樹皮)、剪定枝、タンコロも一定量使う。このほか一般的なチップより含水

率が高め、形状が長めなチップも燃やせるボイラー設計となっている。

また、同発電所は鹿児島県北部も集材圏となるようで、熊本県の複数林材業者が県をまたいで原木を収集する。原木の獲得競争が強まることが考えられるが、周辺の既存事業者への影響は軽微のようだ。同エリアで集材する既存のバイオマス発電事業者は、自社の原木供給に支障が出ないとみて、静観する構えだ。

この発電事業者は、鹿児島県に出力6,000kW弱のバイオマス発電所を運営しており、年間6万トン程度の国内材を使用する。原木を調達し自社でチップ化して燃料に使う。バイオマス発電事業への新規参入よりも中国向け輸出増加による品薄への警戒感の方が強い。「(品薄が長期化すれば)発電所の稼働を止めざる得なくなる可能性もある」(関係者)との声も聞かれた。

(註)国内市場の項目では、動きのある地域の話題を随時掲載して参ります。

## ◎マーケット・ニュース

### ○インドネシア=9月積みPKSの輸出税6ドル引き上げ

インドネシア政府は、9月に同国から荷積みされるPKSに課す関税のうち、輸出税を前月から6ドル引き上げてトンあたり26ドルとする。パーム産業目的基金(レビー)は同3ドルで据え置く見通しで、計29ドルとなる。

今回引き上げる輸出税は、インドネシア政府が月末に発表するCPO(パーム油)基準価格をベースに決定する。同政府が8月27日に発表したCPO基準価格は1,185.26ドルと前月から136.64ドル高で、2カ月ぶりの反発となった。これに伴い、輸出税はCPO基準価格が1,150~1,200ドルで適用されるトンあたり26ドルに決まった。

### ○レノバ=佐賀でバイオマス発電所建設へ、24年12月運開

レノバは8月31日、同社らが出資する唐津バイオマスエナジーの「唐津バイオマス発電所」(佐賀県唐津市、出力4万9,900kW)の建設計画に関し、最終投資決定したと発表した。木質ペレット、パーム椰子殻(PKS)を燃料とする発電所で、2024年12月の運転開始を予定している。投資決定と合わせて、三井住友銀行ら金融機関とプロジェクトファイナンスも組成した。

唐津バイオマスエナジーにはレノバが35%、東邦ガスが34%、JA三井リースが16%、イノセントが15%をそれぞれ出資。JA三井の持ち分16%については、発電所の完成日以降、レノバが買い増す権利を保有している。



### ○東邦ガス＝佐賀のバイオマス発電に参画、熊本に続き2件目

東邦ガスは8月31日、佐賀県のバイオマス発電事業に出資参画すると発表した。唐津バイオマスエナジーに34%を出資する。唐津バイオマスは現在木質ペレット、パーム椰子殻（PKS）を燃料とする「唐津バイオマス発電所」（佐賀県唐津市、出力4万9,900kW）の建設計画を進めており、2024年12月に運転開始する予定。

東邦ガスにとり、木質バイオマス発電事業への参画は熊本県八代市のくまもと森林発電に続き今回が2件目。カーボンニュートラルの実現に向けクリーンエネルギー事業に力を入れる。

### ○燦キャピタル＝SHICHIJOと業務提携、新潟のバイオマスなどで

投資事業を手掛ける燦キャピタルマネージメントは8月31日、再生可能エネルギーコンサルティングのSHICHIJOと業務提携契約を結んだと発表した。まずはSHICHIJOが新潟県十日町市で手掛ける出力1,990kWのバイオマス発電開発事業で協業を始める。燦キャピタルは事業に関わる投資、協力企業の選定、関係各所との調整面などで協力。両社の事業ノウハウ、ネットワークを組み合わせ、バイオマス発電の実現をめざす。このほか地熱発電、小水力発電、太陽光発電の開発事業などでも協業する構えだ。

### ○三井住友信託銀行など＝新潟のバイオマス事業に280億円の協調融資

三井住友信託銀行は8月26日、新潟東港バイオマス発電の木質バイオマス発電事業に対し、280億円のプロジェクトファイナンスを組成したと発表した。新潟東港バイオマスが2024年10月の運転開始をめざす「新潟東港バイオマス発電所」（聖籠町、出力5万kW）の建設資金などに充てる。今回のプロジェクトファイナンスには13以上の金融機関が参加。融資団を取りまとめるアレンジャーは三井住友信託銀と第四北越銀行が共同で務める。

### ○東北電＝新潟のバイオマス発電事業に参画、24年運開予定

東北電力は8月26日、新潟県のバイオマス発電事業に参画すると発表した。シンガポールのエクイス・デベロップメントが設立した新潟東港バイオマス発電に20%出資する。新潟東港バイオマスは木質ペレット、パーム椰子殻（PKS）を燃料とする「新潟東港バイオマス発電所」（聖籠町、出力5万kW）の建設計画を進めている。同発電所は2022年の5月の着工、24年10月の営業運転開始を予定している。

## ◎統計

## ○日本の国別・地域別木質ペレット輸入量、輸入単価21年7月

## 日本の国別・地域別木質ペレット輸入量、輸入単価

2021年7月 (為替レート 110.56)

国別・地域別	21年7月			21年6月	20年7月	21年1~7月	20年1~7月
	数量(mt)	円/mt	ドル/mt	数量(mt)	数量(mt)	数量(mt)	数量(mt)
ベトナム	142,590	17,474	158.05	108,390	123,166	854,887	652,407
カナダ	122,937	23,283	210.59	97,887	45,977	636,377	336,574
インドネシア	11,027	16,829	152.22	102	255	24,421	2,571
マレーシア	10,674	16,918	153.02	22,391	9,315	91,010	102,605
ロシア	5,357	15,563	140.76	11,000	6,319	22,407	6,344
中国	118	42,059	380.42	20	18	441	273
ニュージーランド	28	30,000	271.35	0	28	71	11,186
タイ	0	0	0.00	0	0	0	11,049
フィリピン	0	0	0.00	0	77	0	77
スウェーデン	0	0	0.00	0	6	0	6
エストニア	0	0	0.00	0	0	46	0
米国	0	0	0.00	19	0	26,967	31
豪州	0	0	0.00	0	60	47,001	70
ウクライナ	0	0	0.00	0	0	8	0
合計	292,731	19,845	179.50	239,809	185,221	1,703,636	1,123,193

(出所)財務省貿易統計

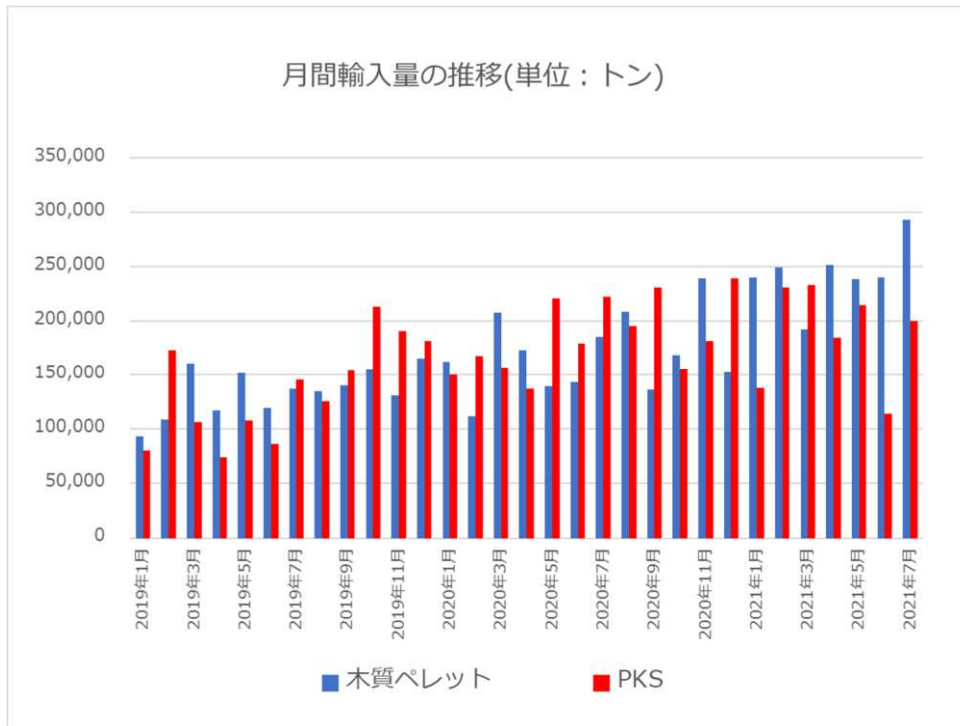
## ○日本の国別・地域別PKS輸入量、輸入単価21年7月

## 日本の国別・地域別PKS輸入量、輸入単価

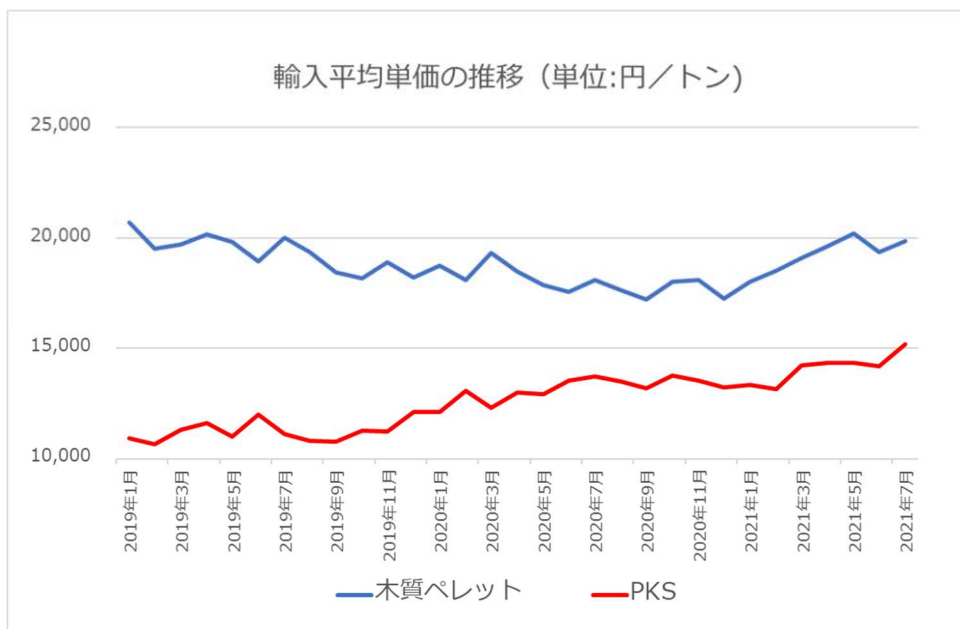
2021年7月 (為替レート 110.56)

国別・地域別	00年1月			00年1月	00年1月	00年1月	00年1月
	数量(mt)	円/mt	ドル/mt	数量(mt)	数量(mt)	数量(mt)	数量(mt)
インドネシア	174,090	15,080	136.39	93,919	182,675	1,092,725	947,486
マレーシア	25,834	15,787	142.79	20,281	39,329	221,848	286,940
タイ	0	0	0.00	0	126	0	326
合計	199,924	15,171	137.22	114,200	222,130	1,314,573	1,234,752

(出所)財務省貿易統計

**○月間輸入量と平均単価推移**


(出所)財務省貿易統計



(出所)財務省貿易統計

**◎リムエネルギー総合指数 22 種(レックス 22、2010 年平均=100)**

2 日のレックス 22 は、前日から 0.61 ポイント上昇し 126.98 です

## ◎ 『クリーンエネルギーレポート』 創刊号発刊のお知らせ

リム情報開発は1月19日、週刊『クリーンエネルギーレポート』の創刊号を発刊しました。

週刊『クリーンエネルギーレポート』では、アンモニアの価格評価に加え、水素、エタノールなど炭素を含まないエネルギーや、排出権取引情報など幅広いトピックスを取り上げます。新型コロナの感染拡大が続く中、脱炭素エネルギーに対する関心が高まっています。『クリーンエネルギーレポート』では、国内外の最新情報を随時掲載していきます。

お申し込みは以下のURLからお願いいたします。下記のURLからは、12月に発刊しました「プレ創刊号」も試読頂けますので是非お目通しください。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/ce1/>

ご購入につきましてご不明な点、ご質問がありましたらお気軽にお問い合わせください。

ご質問は クリーンエネルギーレポートチームまでお願いいたします。

電話：03-3552-2411 E-mail: [info@rim-intelligence.co.jp](mailto:info@rim-intelligence.co.jp)

◇

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

#### 事業所一覧

[東京本社]

Tel:03-3552-2411, Fax:03-3552-2415

e-mail: [info@rim-intelligence.co.jp](mailto:info@rim-intelligence.co.jp)

[シンガポール支局]

Tel:(65)-6345-9894, Fax (65)-6345-9894,

e-mail:[hagimoto@rim-intelligence.co.jp](mailto:hagimoto@rim-intelligence.co.jp)

[北京支社]

Tel:(86)10-6498-0455, Fax:(86)10-6428-1725

e-mail: [guanhong@rimbj.com](mailto:guanhong@rimbj.com)

[上海支社]

Tel:(86)-21-5111-3575, e-mail:[rim\\_sh@rim-intelligence.co.jp](mailto:rim_sh@rim-intelligence.co.jp)

(C) 2021 RIM INTELLIGENCE CO.

お申し込み >

試読 >